

# 福原京

平家ゆかりの地を訪ねて



## コース周辺鉄道路線案内



- 市営地下鉄他社線のりかえ駅
- 市営地下鉄西神・山手線／海岸線のりかえ駅、他社線のりかえ駅

### ● 本コースの最寄り駅 ●

- 市営地下鉄西神・山手線「大倉山駅」(「三宮駅」より約3分)
- 「湊川公園駅」(「三宮駅」より約5分)
- 神戸高速線「新開地駅」(阪急・阪神各「神戸三宮駅」より約5分)
- 神戸電鉄「湊川駅」(「新開地駅」より約1分)
- JR「神戸駅」(JR「三ノ宮駅」より約5分)

発行／神戸市兵庫区役所

協力／高橋昌明、歴史資料ネットワーク、神戸市教育委員会  
平成25年3月発行(令和6年3月改訂)



この散策マップは、古紙配合再生紙を使用しています。

## なぜ遷都したのか？

従来、福原遷都は、平安京においては、以仁王の背後にある勢力、特に奈良の寺院勢力の圧力を回避できないと判断しての、平清盛の突然の思いつきであるかのようにいわれてきました。しかし400年も続いた平安京から都を遷すのが突然の思いつきであろうはずはありません。最近では、清盛の孫の安徳天皇の新王朝にふさわしい新都建設、という政治的背景で理解されるべきである、との意見が有力になっています。遷都は政治環境の大転換、少なくとも人心の一新をもたらします。それゆえ新王朝には新都がふさわしいのです。中国では王朝交代とともに都が洛陽と長安の間を振り子のように移動しましたし、明治新政府は京都から東京に遷都しました。遷都が前から意図されていた証拠に、事前準備として、平家は国際貿易港大輪田泊の国家の力による改修を要求し、認められています。

## 平清盛邸はどこにあった？

治承4年(1180)6月3日、平頼盛邸に入った安徳天皇は、その翌日、平清盛邸に移ります。頼盛邸については、『高倉院殿鳥行幸記』に「あしたという頼盛の家」という記述があります。「あした」は「あらた(荒田)」の誤記とされており、兵庫区荒田町周辺であると考えられています。

清盛邸は、『山傀記』によると、頼盛邸から4・5町(1町は約109m)の眺めのいい「平野の勝地」にあり、『皇年代記』によると「平野殿」と呼ばれていました。また、『方丈記』には、安徳天皇がいた内裏は「山の中なれば」と記録されています。当時のこの様な記録から、清盛邸は荒田の北部に位置し、山がせまる、現在も平野と呼ばれている地域にあったのではないかと推測されます。

現在の兵庫区平野地域・上祇園町周辺に広がる祇園遺跡は、かつての福原の中心にあたります。主に国道428号線に沿った東側部分の発掘調査が行われており、これまでに庭園の池と導水路・排水路、石垣などが確認されています。しかし、調査地が狭いために、全体像は明らかになっていません。

この遺跡からは、宴会で使い捨てにされたと思われる土師器の小皿が多量に見つかっています。また、丸鞆(官人のベルト飾り)や中国製の陶磁器類や京都産の瓦が出土しています。中でも、中国製の玳瑁天目小碗(べっ甲に似た釉薬を使った焼き物)は、日本ではほとんど出土例のない大変貴重な遺物です。

残された文献の記述からは、祇園遺跡の近隣に清盛邸があったと考えられ、この遺跡は清盛に近い有力者の邸宅の一部かあるいは清盛邸の一部であるとも考えられます。

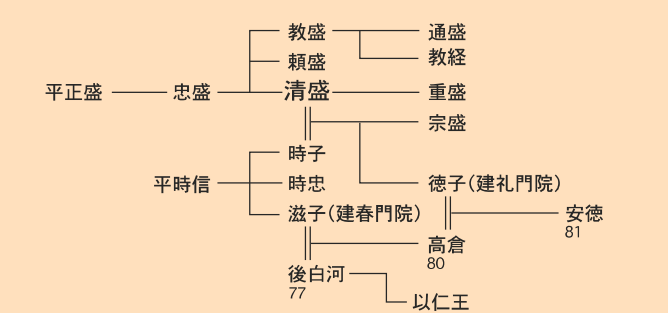


現在の上祇園町(塞神の松広場に祇園遺跡の説明板が建てられています)

### ■ 関連年表

1169年(嘉応1)	平清盛が福原に居を構える
1173年(承安3)	平清盛が大輪田泊に経ヶ島を築く
1179年(治承3)	平清盛が兵を率いて上洛し、後白河法皇を幽閉
1180年(治承4)	2月 安徳天皇即位 5月 以仁王が挙兵を計画 6月 天皇らが福原へ赴く(福原遷都) 8月 源頼朝が伊豆で挙兵 11月 京都へ還都
1181年(養和1)	平清盛 死去(64歳)
1184年(元暦1)	一の谷の戦い
1185年(文治1)	壇の浦で平家滅亡

### ■ 天皇家と平氏の関係系図 (数字は天皇の即位順)



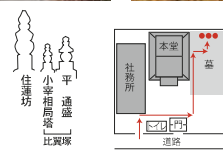
### ● 熊野神社 くまのじんじや

国生み神話の主人公、イザナギ・イザナミの二神を祀る熊野神社は、平清盛が福原遷都にあたって王城鎮護のため紀州熊野権現を勧請したと伝えられています。なお、大正7年(1918)の調査ではこの付近の地下から、土器に納められた貝の腕輪などの遺物が大量に出土し、先史時代から人が住んでいた形跡がうかがえます。



### ● 願成寺 がんじょうじ

願成寺はもと、烏原村住蓮坂の北(現在の烏原水源地の東)烏原谷の東岸にありました。初めは観世音をまつり、観音寺という古い寺でしたが、法然上人の弟子・住蓮坊が中興して、願成寺と称したと伝えられています。烏原村は明治期に上水道の貯水池となったため、村は付近へ立ち退き、寺も現在の地に移りました。



寺には住蓮坊の石塔や源平合戦で討ち死にした平通盛と小宰相局、乳母・呉葉を供養する五輪の石塔があります。なお、寺には、小宰相局の念持仏と絵巻物が残されています。

※念持仏…日常身につけたり、身近に置いたりする仏像

### ● 巖島神社 いづくしまじんじや

平清盛による福原遷都、大輪田泊修築に際して事業の成就と兵庫の地の繁栄を祈願し、治承4年(1180)、平家一門の氏神として深く崇敬している安芸国巖島神社をこの地に勧請したといわれています。



なお、この神社では毎年針供養が行われます。これは心のない物質に対しても、そのお陰を感謝して祈る神道の信仰から発したものです。

## コラム

## 幻の福原京

治承4年(1180)6月、以前から平家の別荘群があった福原(現兵庫区平野)の地に、安徳天皇・高倉上皇以下が大挙して訪れました。都造りの計画があったので、これを福原遷都と呼びます。新都建設の最初の候補地は現兵庫区南部一帯で、中心は和田(輪田)の地ですから、正確には和田京遷都計画と呼ぶべきです。しかし、山が海に迫る神戸の地形では十分なスペースが確保できないとの理由で、計画は早々に放棄されました。

7月半ばになって、福原に皇居をつくり、これを中心に都市域の整備を行う方針に転換します。平清盛は、なんとか福原に都としての実質を持たせようと考えたのですが、保守的な貴族たちの抵抗は次第に大きくなってゆきます。8月に源頼朝が反平家の兵を挙げても、皇居の建設や親平家派上流貴族への宅地供与は進んでゆきます。しかし反乱が全国化・深刻化する中で、11月下旬には天皇・上皇らが平安京に帰り、清盛も福原より引き上げました。遷都の夢は約170日で挫折し、翌年清盛も京都で没します。

兵庫区荒田町の周辺には、清盛の弟の平頼盛の邸宅がありました。神戸大学医学部附属病院構内はその中心域を占めると考えられ、継続して発掘調査が行われてきました。平成15年(2003)には、その一角に、平家時代のものと考えられる並行する2本の壕遺構などが出土しました。



安徳天皇行在所跡の碑(荒田八幡神社)

## コース案内

### 史跡を巡りながら、幻の都に思いをはせる。

平清盛が平安京からこの地に都を遷し、わずか半年ではありましたが優雅な営みもたれた福原京。この福原京の中心地であったといわれるのが、兵庫区の平野地域を中心とする一帯です。

この散策マップでは、平家一門の栄華を偲びながらその足跡をたどります。

### ● A 荒田八幡神社 あらかはまんじんじや

古くは荒田神社といい、後に宝地院境内にあった八幡社を、神仏習合を避けて、明治31年(1898)にここへ合祀して、荒田八幡神社とされました。この近辺の土地は、周囲より一段と高く、この高台付近が都の重要な地であったと考えられます。八幡神社付近には平清盛の弟・池大納言平頼盛の山荘があり、治承4年(1180)6月3日の福原遷都の際には安徳天皇の行在所となり、境内には安徳天皇行在所跡の碑のほか、昭和55年(1980)6月3日に建てられた福原遷都八百年記念の碑があります。

※行在所…仮の皇居



### ● B 祇園神社 ぎおんじんじや

清和天皇の貞観11年(869)、姫路市城北にある広峰神社より京都八坂神社にスサノオノミコトの分霊を移す途中、その御輿が平野の地で一泊されたので、それを記念してここに社を建てたのが始めであるとされています。スサノオノミコトは、祇園精舎の守護神とされた牛頭天王と同一視されたことから「祇園神社」の名の由来があります。平清盛は経ヶ島築造の際、祇園神社の裏山で海潮の響きを聞きながら計画を練ったと伝えられています。



### ● C 雪見御所旧跡 ゆきみのごしきゅうせき

石井川と天王谷川の合流点に位置する雪御所町は、平清盛の別荘「雪見御所」の跡といわれており、清盛が太政大臣の官職を辞した後の仁安4年(1169)春以降、摂州平野のこの景勝地に移り住んだことは、清盛自身の朝廷への上申の文章にみえています。明治41年(1908)に旧湊山小学校の校庭から礎石や土器などが発掘され、雪見御所旧跡の碑が建てられました。



### ● D 氷室神社 ひむろじんじや

氷室神社は、仁徳天皇の兄、額田大中彦皇子がこの地で氷室を発見し、天皇に氷を献上したことから、仁徳天皇を祀りました。平清盛が福原遷都の際、七弁天の一つとして、巖島神社を当社に勧請しました。付近に平教盛の別邸があり、後白河法皇が幽閉されたといわれています。源平合戦の際には、平教経が氷室神社に陣取ったため、この清水は、「陣馬の井」と呼ばれました。また、平通盛と妻・小宰相局との別れの地ともいわれています。

※勧請…神仏の分身・分霊を他の地に移して祀ること



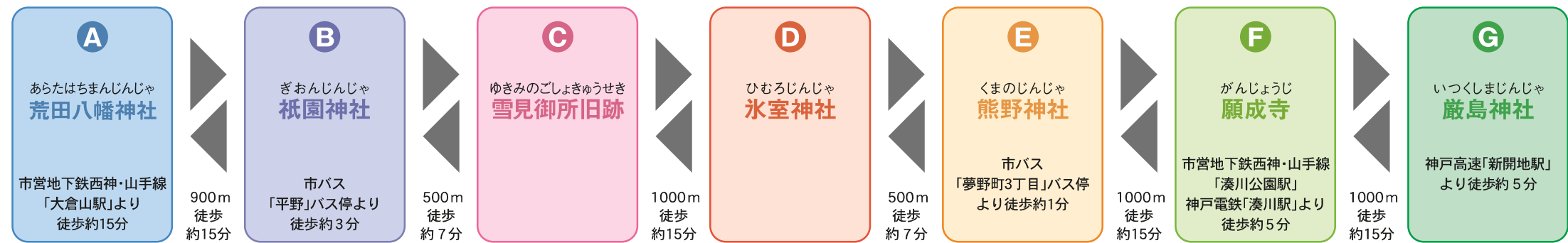
# 福原京

平家ゆかりの地を訪ねて

## MAP



### ■ 福原京～平家ゆかりの地を訪ねて モデルコース [約4,900m:消費カロリー約148kcal]



### コース付近のみどころ

#### 宝地院 MAP①

宝地院は、平清盛のすすめで福原に都を遷し、二位尼時に抱かれて入水した安徳天皇の菩提を弔うため、弘安2年(1279)に建てられたと伝えられています。



#### 東福寺 MAP②

東福寺は、旧奥平野村で最も古い寺です。もとの名を上迦寺と称し、仁安年間(1166～1169)には、平清盛の寄進によって七堂伽藍を構えていましたが、元暦元年(1184)の源平合戦で焼失したと伝えられています。



#### 湊山温泉 MAP③

平清盛の福原庄の雪見御所の近くに湯屋(温泉)があったと、中山忠親の日記『山槐記』治承3年(1179)6月の条に記されています。その湯屋がこの温泉とする説があります。清盛の時代の姿ではありませんが、源泉は同じであったと考えられています。

#### 夢野八幡神社 MAP④

福原遷都に先がけて、治承元年(1177)に建てられたと伝えられています。平清盛は、新都建設を計画し、福原の全域を展望できるこの場所で“のろし”をあげて、新都の位置を測ったと伝えられています。



#### 善光寺 MAP⑤

善光寺の境内には、平清盛の甥・平業盛の塚があります。源平合戦の際、鶴越道から押し寄せた源義経軍にかき乱され、平家軍は浮き足立ちました。17歳の若武者だった業盛も源氏方に討ちとられ、この地に葬られたと伝えられています。



### 周辺情報

#### 清盛七弁天めぐり

平清盛が、安芸国宮島の七つの海岸にちなんで巖島神社を勧請し、兵庫に七つの弁財天を祀った故事に由来する平清盛ゆかりの社寺の散策コース。平成17年に「兵庫七福神・清盛七弁天めぐり」実行委員会によって設けられました。このマップで紹介する巖島神社、氷室神社のほか、和田神社(和田宮通3丁目)、真光寺(松原通1丁目)、濟鱗寺(兵庫町2丁目)、恵林寺(兵庫町2丁目)、花隈巖島神社(中央区花隈町)をめぐる、スタンプ集めも楽しめます。※場所については、兵庫区歴史さんぽ道シリーズ「大輪田泊」のマップに載っています。

